



十和田市立中央病院メンタルヘルス科に 「男性の周産期うつ病外来」を新規開設しました

周産期（産前・産後）うつ病は、女性の妊娠から産後1年間に生じる疾患であり、母子保健の領域で研究と対策が行われてきました。他方、男性もまた、女性の周産期に10%程度と高率にうつ状態を呈することが明らかとなっており、**男性の周産期うつ病**が注目されています。男女の周産期うつ病は、互いに相関しており、いずれも家庭不和や自殺、児童虐待など、重要な問題の原因になることが報告されています。私たちは、**女性だけでなく男性の周産期うつ病に対して支援の輪を広げ、家族単位の視点でメンタルヘルスの問題に取り組む**必要があると考えています。しかし、男性はあくまでも女性と子供に対するサポートの役割義務が強く期待されている一方で、男性自身の心理的サポートについては十分に注目されておらず、男性が周産期に支援の対象になるという視点は乏しいことが問題となっていました。現時点で、国内外において、女性に比べて男性の周産期うつ病に対する、充実した医療支援体制は構築されていないのです。

私たちはこれまでに、男性の周産期うつ病の先行研究を調査し、男性が産後うつ病に罹患する割合が女性と差がないほど高率であることを報告しました。また、現在、十和田市こども家庭センターと協力し、男性周産期うつ病の新規スクリーニングシステムを開発するための研究を行っています。しかし、保健センターの聞き取り調査の過程で、**男性の周産期うつ病について、実際に病院受診が必要な場合でも、様々な理由で支援を受けるハードルが高いことが分かりました。**このため、男性の周産期うつ病に関し、患者さんが受診しやすくなるだけでなく、市民の皆様への疾患理解も得られると考え、**十和田市立中央病院メンタルヘルス科に、男性の周産期うつ病外来を開設しました**ので、お知らせします。

理想の父親でありたいと強い育児信念をもち、「こうあるべき」と考える父親ほど、強い不安や悲しみを感じていることも知られています。また、男性が「父親」になることは、女性が「母親」になるよりも時間がかかる場合が多いことが明らかとなっているため、役割を気負い過ぎて心理的苦痛を感じている男性には、あまり理想を追い求めすぎないようにサポートする必要があります。男性の周産期うつ病について、受診の必要性を感じた患者さんおよびご家族の皆様の相談をお待ちしています。

本件に関するお問い合わせ先：

十和田市立中央病院メンタルヘルス科 科長 徳満敬大（とくみつけいた）

住所：青森県十和田市西十二番町 14 番 8 号

電話：0176-23-5121（代表）電話受付時間：平日午前9時～午後5時